

カヤツリグサ科 スゲ属

ナキリスゲ (菜切菅)

Carex lenta D. Don var. *lenta*

自生環境

山林、神社 など

原産地

日本在来

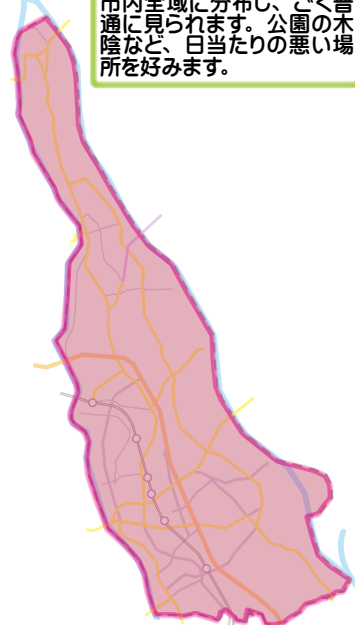
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域に分布し、ごく普通に見られます。公園の木陰など、日当たりの悪い場所を好みます。



特徴

- ☆ 林の中に生える多年草で、何年もかけて大きくなり、こんもりとした株に育ちます。市内ではナガバジャノヒゲといっしょに生えていることが多く、花や果実の無い時期は非常にそっくりですが、葉の質感や色合いは微妙に異なります。
- ☆ ナキリスゲの葉はがっしりと硬くて深緑色。常緑で冬も青々とした葉をつけています。葉の縁はルーペで見るとまるで糸鋸のように細かい刺が生えています。この様子が、まるで菜っ葉も切れそうなくらいだという意味で「菜切り」と名がつけました。
- ☆ 秋になると、葉の間からしゅっと長い茎をのばし、その先に花の穂をつ数本ずつつけます。穂につく花は大部分が雌花で、雄花は穂先にちょこっとつく程度です。柱頭は2本で、果苞は短い毛が生えています。

スゲには珍しく秋咲き

スゲの仲間は、それだけで1冊の図鑑ができるほど種類がありますが、その多くは、春から初夏にかけて穂を出します。そんな中ナキリスゲはちょっと変わっていて、秋に開花・結実する種類です。市内で見られる可能性のある秋咲きのスゲとして、ほかに、センダイスゲとコゴメナキリスゲが挙げられますが、いずれも稀なものです。ナキリスゲのほうが圧倒的に数が多いです。

スゲの仲間には珍しく
秋に穂を出す

雄花と雌花は
同じ穂につく

ナガバジャノヒゲと
一緒に生えて
よく似ている

ナキリスゲ
ナガバ
ジャノヒゲ

穂をつける
茎の長さは
40~80cm ほど

雌花

雄花

雌花の穂の先に
短い雄花の穂がつく

かほう
果苞

果苞の表面には
短い毛が生えている

葉の縁に
糸鋸のような
刺がある

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

